

大学院経済学院の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

大学院経済学院では、学位授与方針で掲げる人材を育成するため、以下の特色ある取組みにより各専攻の教育課程を編成し、実施します。

【国際性の涵養】

- ・ 現代経済経営専攻では、一部の科目に関して英語で授業を行い、コミュニケーション能力も含めた国際的に活躍できる能力を育成する。

【特色ある教育プログラム】

- ・ 大学院経済学院では、職業に従事しながら研究をすることを希望する学生の学習機会をいっそう拡大する観点から、長期履修制度を導入している。長期履修学生に認定された場合、標準修業年限（修士課程2年、専門職学位課程2年、博士後期課程3年）を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修して課程を修了することが認められる。
- ・ 学会発表奨励制度を設置し、修士課程・専門職学位課程・博士後期課程在籍学生を対象として、学会発表（全国大会）に関わる費用の一部を助成することで研究成果の公表を推進している。
- ・ 会計情報専攻では、最先端の実務とのリンケージを図るべく、外部の実務家・研究者と密接に連携し、セミナーを開催している。

【キャリア形成の支援】

- ・ 会計情報専攻では、他の会計専門職大学院と連携し、監査法人へのインターンシップを実施している。

【教育の質保証】

- ・ 高い教育の質を保証するため、各授業でアンケートを実施し、授業改善に役立っている。
- ・ 会計情報専攻では、授業のピア・レビューとともに、外部評価者によるレビューを実施している。また年に2回、学生との懇談会を開催している。
- ・ 現代経済経営専攻では指導教員、会計情報専攻では担任教員を配置し、学習や進路相談等の学生支援を実施している。

現代経済経営専攻の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

現代経済経営専攻では、学位授与水準に定めた能力を持つ人材の育成を目標として、以下のとおりカリキュラムを編成し、実施します。

■修士課程

- ・ 必修科目である「現代経済経営演習」では、修士論文等の執筆に向けた専門的な指導を行う。

- ・ グローバルな経済を的確に見通すために、多彩な科目を開講する。
- ・ 本院の他専攻の授業科目，本学経済学部授業科目，本学他院等の授業科目（大学院共通授業科目を含む），および，協定大学大学院の授業科目を一定範囲内で履修することができ，幅広い観点から学習できる。
- ・ 修士論文発表会を実施し，指導教員以外からのアドバイスを受けることにより，優れた修士論文の作成を支援している。
- ・ TA 業務を通じて，優れた教育能力・コミュニケーション能力の向上を図る。

■博士後期課程

- ・ 博士後期課程では，「演習」と「特別研究」の授業が展開される。
- ・ 「演習」では，専門分野の先端的研究とともに，研究方法，論文作成，研究発表の方法等を学習する。
- ・ 「特別研究」（ワークショップ）では，複数指導体制を採用し，全国および海外の研究機関から一流研究者を講師として招聘することもある。研究進捗報告を行うことで，専門領域や学問的関心の異なる教員集団から多面的かつ積極的な刺激を受けることができ，自らの研究のクオリティーや生産性を一層高める。
- ・ 公開研究発表会（博士論文研究発表会）を実施し，指導教員以外からのアドバイスを広く受けることにより，優れた博士論文の作成を支援する。
- ・ TA・RA 業務を通じて，教育者として必要となる高度な教育能力・コミュニケーション能力，研究遂行・管理能力の向上を図る。

会計情報専攻の教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

会計情報専攻では，学位授与水準に定めた能力を持つ人材の育成を目標として，以下のとおりカリキュラムを編成し，実施します。

■専門職学位課程

- ・ すべての科目を「基礎科目」「応用科目」「実践科目」として配置し，入学者のニーズに応じてスムーズな学習が可能となるようカリキュラムを構成している。
- ・ 会計専門職として必須の要件と考える「会計職業倫理」を必修とし，社会に貢献するための倫理観・社会的責任感を涵養する。
- ・ 「財務会計」「管理会計」「監査」「税務会計」の4分野をバランスよく配置し，会計専門職として備えるべき多様な知識を提供している。
- ・ 経済のグローバル化に対応できるよう国際的問題を扱う科目を重点的に配置し，最先端の知識を提供するとともに，国際的に活躍できる能力の向上を図る。
- ・ 公的部門に関する会計科目を開講し，国，地方公共団体，特殊法人，公益法人，独立行政法人，NPO 等で活躍できる能力の向上を図る。
- ・ 情報技術・情報処理能力を重視し，会計専門職として備えるべき多様な IT スキルの向上を図る。